

競技会

【大会の形式】

大会の形式には下記の方法がある。

【トーナメント型】

全日本総合ハンドボール選手権大会を代表とする方式をさす。現在の国内の試合の多くはこの方式をとる。ノックアウトシステムともいう。決められた試合時間が終了したときに同点の場合は延長戦が行われる。規則では第2延長まで行うことが示されており、その後さらに同点の場合は、主催者が勝敗を決する方式を決定することが出来るとされている。現在は7mスローコンテストで決することが一般的である。

また、大会によっては時間的配慮から準決勝までは第1延長のみとして、7mTCとすることもある。

【リーグ戦型】

日本リーグを代表とする方式をさす。学生も各地区大会でこの方式を採用している。一般的には、勝ったチームが2点、引き分け1点、負けたチームは0点とポイントをつけ、ポイントの多寡で順位を決める方式をいう。正規の時間内で勝敗が決しない場合は引き分けとする。最終的にポイント数が同点のチームが複数ある場合は、さらに細かな規則を用いて順位を決定する。決定方法は主催団体に一任され、大会要項に明示されていなければならない。

一例を記載する。

- ・ ポイント制を用い、ポイントの多いチームが上位となる

勝利チーム	2点
引き分け各チーム	1点
敗者チーム	0点
- ・ 2チーム以上のチームが同ポイントの場合
 - ・ 2チーム、2チーム以上のチーム同士のポイント数
 - ・ 2チーム、2チーム以上のチーム同士の総得点数差
 - ・ 2チーム、2チーム以上のチーム同士の総得点数
- ・ 全試合の得失点差
- ・ 全試合の総得点数
- ・ 主催者代表者（一般的には競技委員長）が両チーム代表の立ち会いのもとに抽選をする

【7mスローコンテスト】

7mTCの方法は、本協会のHPを参照すること。

【7mTCの結果の表記】

試合結果は下記の通りとする。

25 対 24

7mTC 3 対 2 とする。

Aチーム	25	{	8 - 7 7 - 8 2 - 0 0 - 2 3 - 2 2 - 3 3 7mTC 2	}	24	Bチーム
25 対 24						
7mTC 3 対 2 でAチームの勝ち						

【試合の延期】

突発的事項の発生により試合が継続できなくなった場合は、下記の通りの方法により延期し、競技を再び行う。短時間で競技が再開できる場合は、残り時間、得点を継続して競技が中断したときの理由の、再開のペースで再開する。短時間でないということは、たとえば当日に出来ないとか、間に別の試合が入るとかを意味する。可能であれば当日再試合を行うよう努力する。当日出来なければ、観客の有無にかかわらず、翌日（別の日）に同スコア、同じ残り時間、中断時の状況から開始しなければならない。本年度からIHFが示した方法で実施する。

大会、各試合の続行に関して特別な判断が求められる場合は、日本協会代表者が決定する。状況によって、各組織の代表者と協議し、決定することとする。

【没収試合、放棄試合、棄権試合】

没収試合、放棄試合、棄権試合の記録の方法をIHFの規程では、10対0、もしくはそれ以上の点差とする、としている。国内の試合はゲームエントリー数の14対0とする。リーグ戦型の場合、順位をつける際に得点、視点との関係から熟慮が求められる。当面の間、点数は各団体が決定することとする。将来的には、IHFの規程通り、10対0、もしくは10対0以上にする意向である。

【異議の申し立て】

競技規則 17 の 12 により、レフェリーの観察や判断に基づく判定は、最終的なものである、と示されている。ただし、競技規則に適合しない判定に対してのみ、異議を申し立てることができる。この場合、許されるのは、チーム責任者マークを着用しているチーム責任者のみである。不在の場合、あるいは、着用していない場合はこの権利はない。さらに、異議の申し立てをする場合は、別紙の要領に従って行う（裁定委員会規程参照）。